

## ➤ 小児外科

当科は常勤医として、日本小児外科学会専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医（小児外科領域）、日本小児救急医学会認定小児救急スペシャルインタレストメンバー、日本小児血液がん学会認定外科医の資格を持つ医師が在籍する三重県で唯一の施設です。

当院の小児外科の歴史は前身である三重県立医学専門学校・三重県立医科大学附属塩浜病院で、水谷民衛先生、山下孟美先生、西城英郎先生、橋本剛先生、天野信一先生、坂倉究先生らにより、三重県に小児外科という新しい芽が生まれたことにはじまります。その小児外科の芽は三重大学附属病院を中心に三重県で大きく根付き、そして時を超えて、三重県の小児外科医療の発祥の地である当院に新しい小児外科の芽が生まれました。2018年11月1日より当院に小児外科が標榜され、2019年1月1日より日本小児外科学会教育関連施設にも認定されております。

小児外科とはいわゆる「小児一般外科」であり、当科では脳、心臓、大血管、整形外科の病気を除くこどもの一般外科の病気の診療を行っております。

こどもは大人と比べて体が小さくて、弱いです。身体的、精神的にも発達段階にあり、年齢によって対応は大きく異なります。こどもについての専門的な知識を持った外科医、それが小児外科医であり、将来をになうこども達を誇りと情熱をもって治療しています。

対象となるのは0歳から15歳まで、新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期の病気ですが、15歳を超えても小児外科で手術した病気に関係する場合はそのまま小児外科で診療を行います。また、必要に応じて成人医療へ移行していきます。

当科では、腹腔鏡を用いた単孔式手術や小切開での開腹手術など、お子様の傷が少しでも目立たなくなるような手術を行っております。もちろん、お子様に負担なく、安全に手術を行うことを一番に考えております。一般社団法人日本内視鏡外科学会認定の日本内視鏡外科学会技術認定医（小児外科領域）が常勤し、安心してお子様の腹腔鏡、胸腔鏡の手術を受けていただくことができます。日本内視鏡外科学会技術認定医（小児外科領域）による腹腔鏡下噴門形成術（胃瘻造設術も含めて）を受けていただくことができます。

## ◆手術症例の概要

手術内訳 2020年1月1日～12月31日

手術名	手術件数	うち腹腔鏡手術件数
鼠径ヘルニア根治術	47	43
臍形成術	14	
虫垂炎手術	7	7
停留精巣固定術	14	
中心静脈カテーテル留置術	8	
全身麻酔下内視鏡検査	10	
正中ヘルニア根治術	2	
外傷手術	8	
精巣捻転手術	3	
気管切開術	4	
尿膜管切除術	3	3
腹腔鏡下噴門形成術	1	1
肥厚性幽門狭窄症手術	1	
腸回転異常症手術	2	
壊死性腸炎に対する手術	0	
気管無形成に対する手術	0	
小腸憩室切除術（メッケル憩室を含む）	2	
その他	40	
計	166	54

## ◆主疾患治療プロトコール

- ・鼠径ヘルニア、停留精巣、臍ヘルニアなど 入院期間 1泊2日または2泊3日（手術の翌日に退院可能です）
- ・虫垂炎 入院期間 3-7日 単孔式腹腔鏡補助下虫垂切除術（おへその中の傷だけで行います）
- ・腹腔鏡下噴門形成術±胃瘻造設術 入院期間 14日（日本内視鏡外科学会技術認定医（小児外科領域）による腹腔鏡下噴門形成術を受けていただくことができます）
- ・全身麻酔下消化管内視鏡検査（小児の胃カメラ、大腸カメラともに可能です）  
入院期間 1泊2日（検査後の治療が必要ない場合）
- ・尿膜管遺残（尿膜管洞） 入院期間 3-7日 単孔式腹腔鏡補助下尿膜管切除術（おへその中の傷だけで行います）
- ・その他、腹壁ヘルニア、肛門周囲膿瘍、肛門ポリープ、尿膜管遺残、胃食道逆流症、包茎、胆道拡張症、若年性ポリープ、頸部膿瘍、腹腔内膿瘍、中腸軸捻転、腸管重複症、小腸捻転、メッケル憩室、腸重積、上部消化管出血、食道異物、頸部腫瘍、臍肉芽腫、卵巣嚢腫、リンパ管腫、気管切開、胃瘻造設などの治療が可能です。

#### ◆その他

---

当院が資格を有する当院の施設基準：

日本小児外科学会認定の教育関連施設\*

\*2019年より当院は日本小児外科学会より教育関連施設に認定されております。

日本小児外科学会認定の教育関連施設とは専門医育成のための専門研修施設群のひとつであり、小児外科専門医を目指す若手医師の修練の場として、患者様に安全で適切な医療を行うことができるよう心がけております。